

祝 令和7年 秋の叙勲

瑞宝単光章 消防功勞



何かあれば地域は自分たちが
守る強い信念で活動



たかはし しんいち
高橋 新一さん (70歳)
下永徳寺在住

元金ケ崎町消防団副団長。学
校を卒業後、地域の工場で勤務。
昭和53年1月～令和6年3
月までの43年9カ月、町消防
団で活躍。現在も金ケ崎町農業
委員、胆沢平野土地改良区総代
を務める。

「信頼してもらうためには、常に自
分の仕事に対する姿勢を示すことが大
切」と消防団での経験を話す新一さん。
昭和53年1月に「地域の防災意識を高
めたい」という信条で、金ケ崎町消防
団に入団。43年以上にわたり、地域の
安全を守るため奔走した。

入団後は、先輩団員から消防団員と
しての心構えを学び、「地域に密着し
ているからこそ、どんな時でも自分た
ちを信頼してもらうことが大切」と考
えるようになった。

43年9カ月の団員生活で特に印象に
残っているのは、平成17年に永沢地域
で起こった3棟が全焼した火災。当時
第2分団副分団長だった新一さんは、
昼夜問わず団員への指示出しや消火対
応に従事した。平成19年からは本団分
団長、23年からは副団長として、町内
の住民を守るために一層の活動を行っ
てきた。退団した今でも新一さんを慕
う後輩たちは多く、「今の環境にあっ
たやりかたで、無理をせず怪我をしな
いように取り組んでほしい」とアドバ
イスを送っている。

受章の報告を受け、「名誉であり光
栄なこと。自分がこれまでやってきた
証を評価いただけた」と笑顔で話した。
昭和55年に結婚し、いつもそばで支え
てくれた妻の美恵子さんは令和3年に
逝去。「苦劳かけたことも多かったけ
ど、墓前の前で良い報告ができるかな
」と感謝の思いを口にした。

広報日記



10月4日には新町誕生70
周年記念事業を開催。多く
の方々にお越しいただき、
町の式典と一緒に盛り上げ
ていただいた。皆様一人一
人が金ケ崎町を作り、歴史
を繋いできた結果だなど改
めて感じている。

秋はイベントが多数あ
り、広報担当者1人ではな
かなか回り切れない部分も
あったが、それでも多くの
会場に足を運び、金ケ崎町
の良さを広められるように
と痛む右肩をかばいなが
ら、写真撮影を行った。こ
れからも「We love
かねがさき」の気持ちを忘
れずにいたい。(千葉)

10月31日現在	
人口と世帯	※()内は前月比
人口	15,077人 (△28)
男	7,791人 (△14)
女	7,286人 (△14)
世帯数	6,648世帯 (△5)